

第3回太田知恵の和で出た主な意見

◇日時：平成29年7月8日

◇場所：太田公民館2階大会議室（太田三丁目6番18号）

◇参加者：26名

◇内容：（1）追手門学院大学地域創造学部 今堀洋子准教授による講演

『いきものとまちづくり～追大における実践例の紹介～』

（2）追手門学院大学地域創造学部 山本博史教授による講演『交流の場づくり』

（3）『交流の場づくり』をテーマにワークショップ

《ワークショップ各班の発表内容》

第1班

テーマ「高齢化」

＜発表内容＞

- 農業をやっていた方が多い地域でもあり、先生になる方もたくさんいるだろう。大学の中でやるのもいいが学校が少ないので、休耕地を活用し、農業の知識をもった高齢者から育て方を教わる。校内にキッチンを作り交流しながら、食物ができるまでの流れを勉強してほしい。
- 高齢者から、子供たちに知識や知恵を紹介できる機会を設けてほしい。
- スタンプラリー等の学生と地域との交流ができるイベントを実施し、大学以外の場所でもできれば、交流の機会がふえ、子育てもしやすい環境になっていくと思う。そして将来、高齢化が進んでも、若い方が住みたいと思ってもらえるのでは。
案として、一人暮らしの高齢者の家で、シェアハウスを斡旋するような取り組みをすることで、高齢者も安心して暮らすことができ、学生も安く住むことができる。結果多くの方に来てもらえるのでは。

第2班

テーマ「地域住民の利用施設整備について」

＜発表内容＞

- 高齢者と、大学の連携が大事。
現在、ふるさと祭りは太田小学校でやっているが、遠くて行きづらく参加できない高齢者もいるので、今後は他の行事も含め、地域の真ん中にある大学で開催すれば、参加できる方が増えるのでは。

第3班

テーマ「子供と生徒と保護者をつなごう」

＜発表内容＞

- 小学生は、勉強やいろいろ学べる場所が充実しているが、中学生は、勉強が難しくなり、塾に頼らざるえなくなり、経済差が学力格差につながっている現状がある。
- 放課後に、大学生が子供たちに勉強を教えてもらえたり、高校受験の生徒にどのように受験校を決めたか等の経験を聞かせてもらう場所が欲しい。また、受験を経験した保護者と、これから受験を控え

る保護者の方との情報交換できる交流の場があればいい。

- 学童が終了した子供たちは、放課後や夏休み等一人になる時間が多くなるので、地域みんなで見守っていただける場があれば、保護者も安心できる。
- 安威キャンパスに、子供たちが色々経験できる場所を提供してもらっているが、太田キャンパスにもそんな施設を設けて欲しい。
- 映画の上映をしてほしい。

第4班

テーマ「太田地区に何が必要か」

<発表内容>

- 図書館、カフェ等を作れば、地域の人が集まり交流が深まるのでは。
- JR 総持寺駅からスクールバスを出し、学生以外の一般の方も利用できるようにしてほしい。
- 子供を見守る仕組みが必要。
- 学祭に、地域の方に遊びに来てもらう。
- エディブルガーデンをつくり、子供用に一人一つの庭があれば。
- 提案として、地域とルールを決め、学校の一部を貸してもらい、まちライブラリーを開いたり、広場でお弁当を食べたりお茶したり、家庭菜園などで活用できれば、学生と交流ができるのでは。

第5班

テーマ「新しい住宅と高齢者」

<発表内容>

- 交流とは、新しい方が入ってから始まると思うが、まだまだ時間がかかると思うので、まずは今住んでいる高齢者の方と学生が、コミュニケーションが大事なのではないか。
- 太田公民館、西河原公民館、西河原多世代交流センターの近隣施設を活用し、学生と高齢者が話し合う機会を設けてほしい。
- 昔からいる地域の農家の方々から、新しい住民の方に、自然の知恵を学ぼうという政策も必要なのでは。
- どんどん街が新しく変化しており、憶測も広がる中で感じることは、地名が古く東芝のイメージもつきまとう。「彩都」が成功したように、空を見上げるような、新しいネーミングを仮称でもいいので、行政に発表してほしい。